

1 人 口

(1) 亀岡市の人口

亀岡市の人口は、89,479人

平成27年10月1日現在の亀岡市の人口は、89,479人となり、前回調査（平成22年国勢調査—以下同じ）に比べ2,920人（3.2%）減少しました。（図－1、第1表参照）

人口の推移 ～50年間で2.2倍～

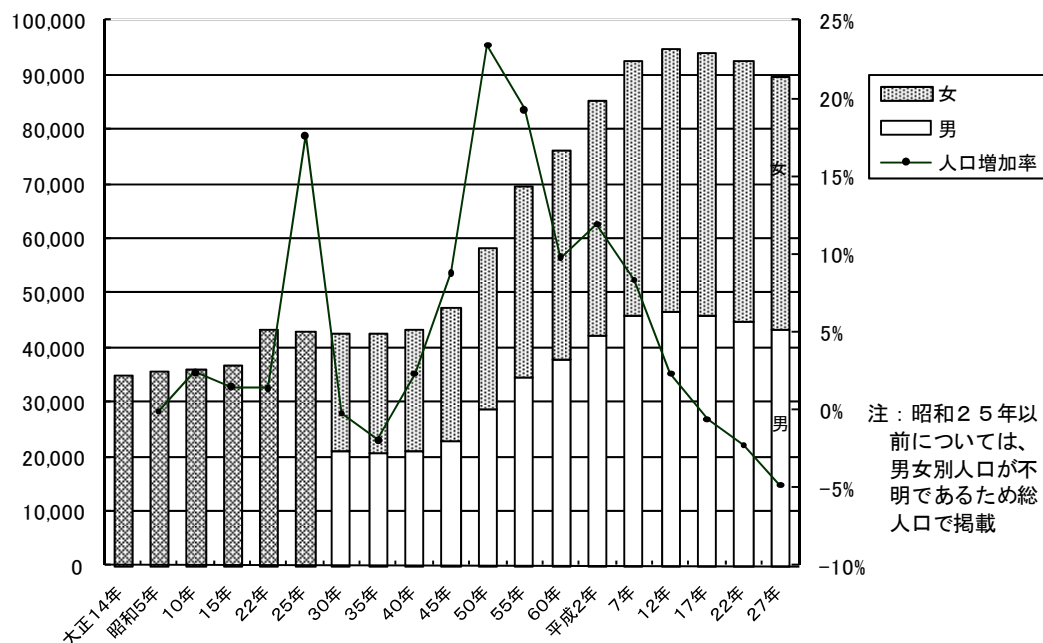
亀岡市の人口は、大正9年の第1回調査以来85年間で2.7倍、市制施行時の昭和30年第8回調査以来50年間で2.2倍になりました。人口増減率は、今回調査が△3.2%で、昭和35年から上昇傾向にありましたが、昭和50年調査の23.4%をピークに平成2年調査を除いて、低下傾向にあります。（図－1、第1表参照）

男女別人口 ～男女数の差、引き続き拡大～

人口を男女別にみると、男性43,267人、女性46,212人となり、前回調査に比べ、男性1,622人（3.6%）、女性1,298人（2.7%）の減少となっています。

人口性比（女性100人に対する男性の数）についてみると、93.6%となり、前回調査の94.5%に比べて0.8%低下しています。（図－1、第1表参照）

図－1 亀岡市の男女別人口及び人口増加率の推移

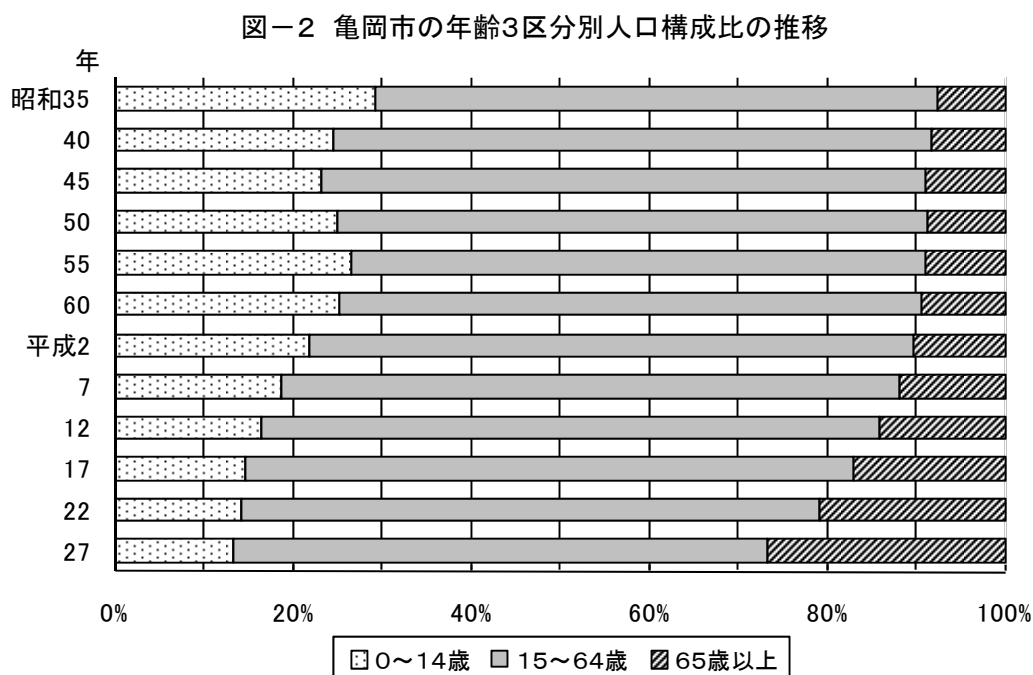


年齢3区分別人口 ～65歳以上人口は総人口の26.2%～

人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が11,845人、15～64歳の生産年齢人口が53,179人、65歳以上の老年人口は23,457人で、全人口に占める割合はそれぞれ13.2%、59.4%、26.2%となっています。

年齢3区分別人口を前回調査と比べると年少人口は1,173人減少（減少率9.0%）、生産年齢人口は6,559人減少（減少率11.0%）しているのに対し、老年人口は4,377人増加（増加率22.9%）となっており、老年人口は著しく増加しています。この結果、年齢3区分別割合は前回調査（年少人口14.1%、生産年齢人口64.7%、老年人口20.6%）に比べて、年少人口が0.9%、生産年齢人口は5.3%減少、老年人口は5.6%増加しています。

（図－2、第2表、第3表参照）



注：人口は年齢不詳が含まれているため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

(2) 亀岡市町別・地域別人口

町別人口 ～東つつじヶ丘で高い人口増加率～

町別に人口をみると、亀岡地区の20,268人が最も多く亀岡市全体の22.7%を占めていますが、この割合は平成7年よりほぼ横ばいになっています。以下、篠町18,691人（市全体の20.9%）、大井町の8,429人（市全体の9.4%）と続いています。

この5年間で最も人口が増加したのは、千代川町の566人で、続いて篠町の183人で、増加率が大きいのは、千代川町の7.7%、篠町の1.0%となっています。

逆に最も人口が減少したのは、南つつじヶ丘の568人、続いて畑野町の366人、蕨田野町の323人で、減少率が大きいのは、東別院町・西別院町・畑野町の15.6%となっています。

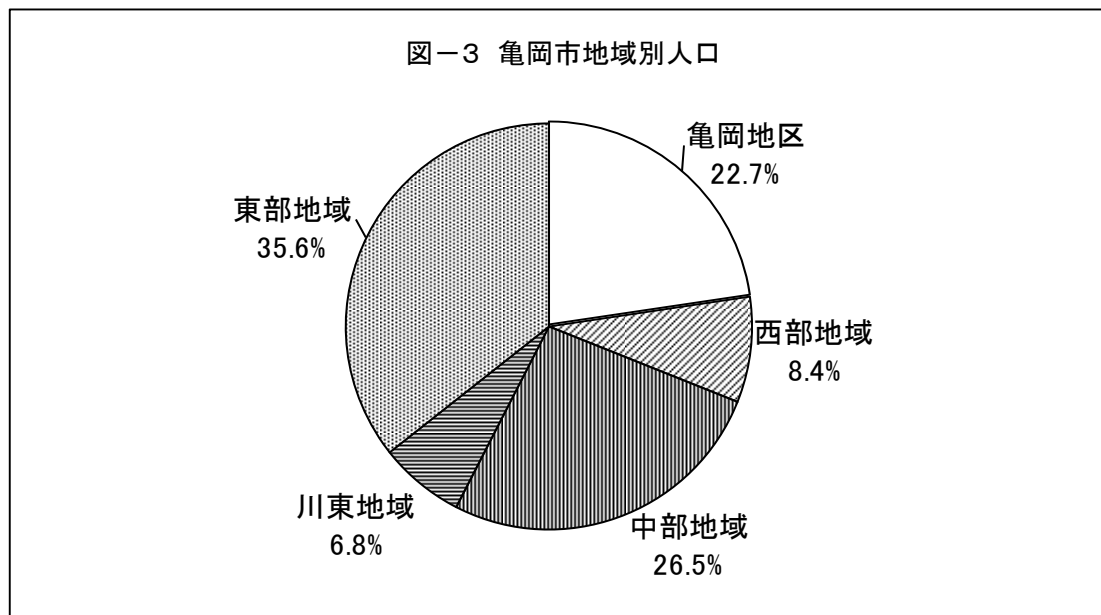
（第15表、第16表、第17表、第21表参照）

地域別人口 ～市人口の3割が東部地域に集中～

地域別にみると、東部地域の31,897人が最も多く亀岡市全体の35.6%を占めています。続いて中部地域の23,705人で26.5%、亀岡地区の20,268人で22.7%と続いています。

人口を前回調査と比較してみると全域で減少しており、減少率は3.2%となっています。

（図－3、第18表参照）

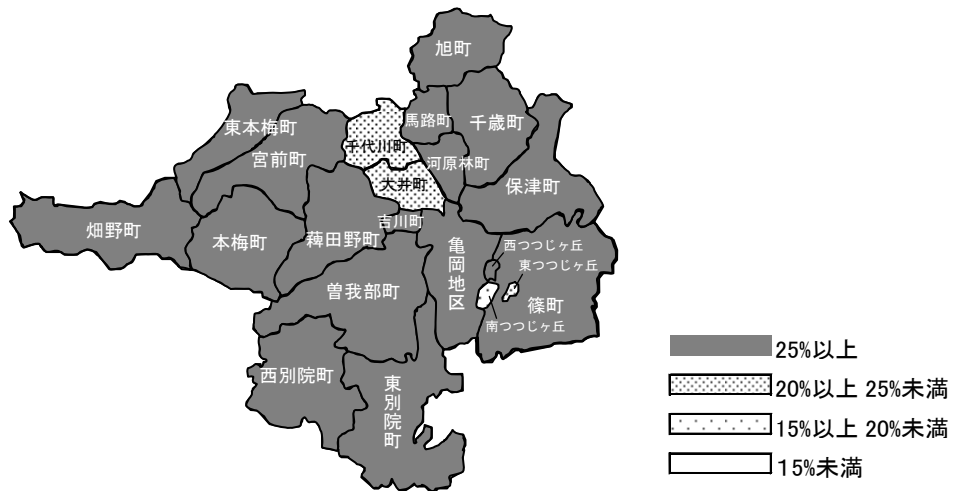


年齢別人口割合 ～川東地域で高い老年人口割合～

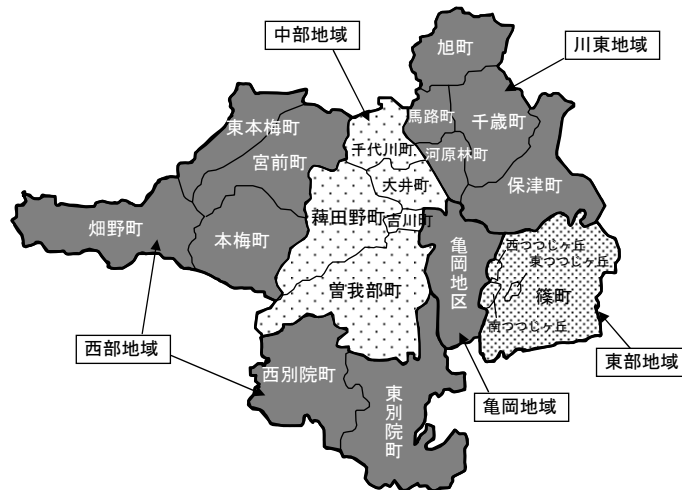
年齢3区分別人口を町別にみても、老年人口割合が最も高いのは、河原林町の42.9%で、次いで東別院町の42.0%、保津町の40.1%、菟田野町の38.2%と続いており、地域別では川東地域で38.0%と高くなっています。なお、老年人口割合が最も低いのは、南つつじヶ丘の19.5%です。

一方、年少人口割合が最も高いのは東つつじヶ丘の16.9%で、次いで千代川町の16.6%、篠町の16.4%となっています。（図－4、図－5、第19表、第20表参照）

図－4 町別老年人口割合



図－5 地域別老年人口割合



【参考】年齢3区分別人口

- 年少人口・・・14歳以下
- 生産年齢人口・・・15歳～64歳
- 老年人口・・・65歳以上

2 世帯数

(1) 亀岡市の世帯数

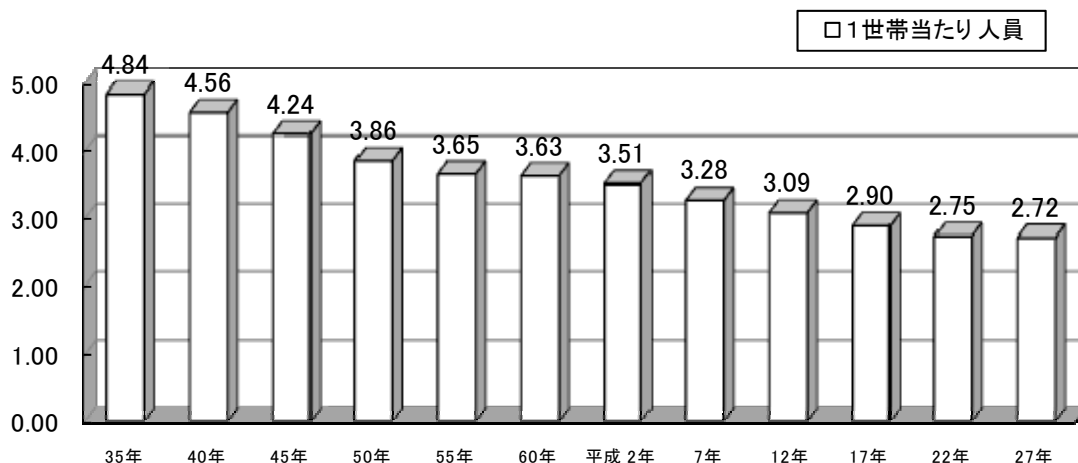
亀岡市の世帯数は、33,915世帯

平成27年10月1日現在の亀岡市の世帯数は、33,915世帯となっており、前回調査に比べると290世帯の増加（増加率0.9%）となっています。

一般世帯についてみると世帯数は33,863世帯、世帯人員は88,114人で、1世帯当たりの人員は2.60人となっています。

平成22年から27年までの5年間に、一般世帯数が274世帯の増加（増加率0.8%）であったのに対し、世帯人員は3,055人の減少（減少率3.4%）であったため、1世帯当たりの人員は0.11人減少し、世帯規模の縮小化が進んでいます。（図-6、第1表、第7表参照）

図-6 1世帯当たり人員



家族類型別世帯数 ～核家族は一般世帯の65.5%～

一般世帯を家族類型別にみると、親族世帯は25,497世帯（一般世帯の75.3%）、非親族世帯191世帯（一般世帯の0.6%）、単独世帯は8,049世帯（一般世帯の23.8%）になっています。

親族世帯のうち、核家族世帯は22,307世帯で、一般世帯の87.5%を占め、前回調査と比べると318世帯増加（増加率1.5%）となっています。（第7表参照）

高齢者のいる世帯数 ～高齢者の1人暮らし増加～

65歳以上の高齢者のいる一般世帯は、15,004世帯で一般世帯の44.3%を占めており、約3世帯のうち1世帯が65歳以上の高齢者のいる世帯になります。

また、このうち高齢者の一人暮らし（単独高齢者世帯）は3,229世帯（高齢者のいる一般世帯の21.5%）となっており、前回調査の2,312世帯と比べて917世帯の大幅増加（増加率39.7%）となっています。（第7表参照）

(2) 亀岡市町別・地域別世帯数

町別世帯数 ～東つつじヶ丘で高い世帯増加率～

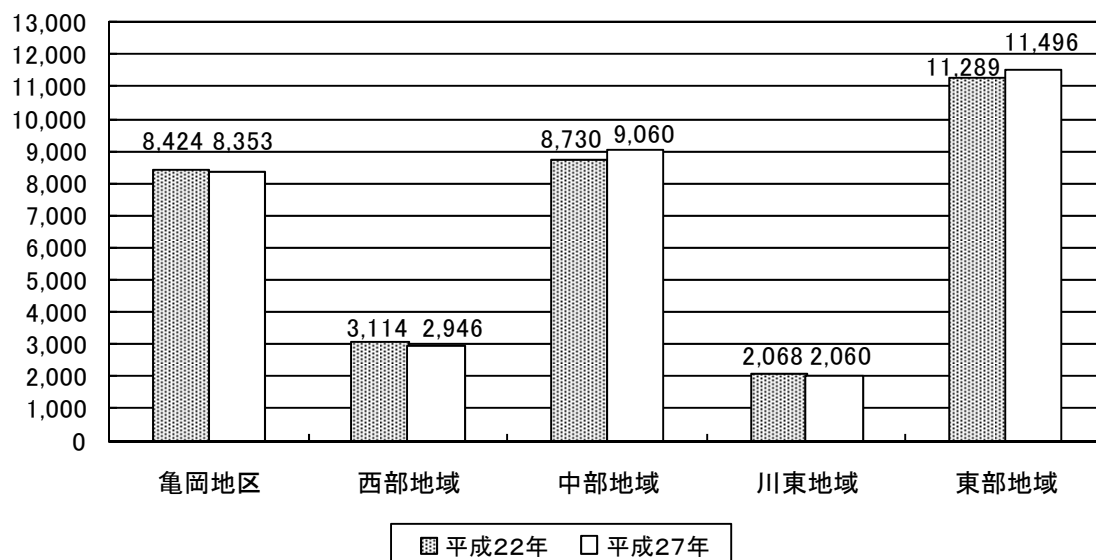
世帯数を町別にみても、亀岡地区で8,353世帯と最も多く市全体の4分の1を占めています。次いで篠町の6,819世帯、大井町の3,270世帯と続いています。

地域別にみると、東部地域が最も多く11,496世帯で市全体の3分の1を占めています。

前回調査と比較すると、中部地域、東部地域で増加しており、中部地域で増加率3.8%と最も高い伸びがみられます。特に千代川町では、14.0%と伸びが目立っています。

1世帯当たりの人員は、河原林町が3.6人と最も多く、馬路町、旭町が3.0人と続いています。最も少ないのは、畑野町の2.3人で、亀岡地区、東別院町、西別院町、吉川町の2.4人という結果になっています。(図-7、第15表、第18表、第22表参照)

図-7 亀岡市地域別世帯数



【参考】

地域区分

亀岡地区・・・亀岡地区

西部地域・・・東別院町、西別院町、本梅町、宮前町、畑野町、東本梅町

中部地域・・・曾我部町、吉川町、蔦田野町、大井町、千代川町

川東地域・・・馬路町、旭町、千歳町、河原林町、保津町

東部地域・・・篠町、東つつじヶ丘、西つつじヶ丘、南つつじヶ丘

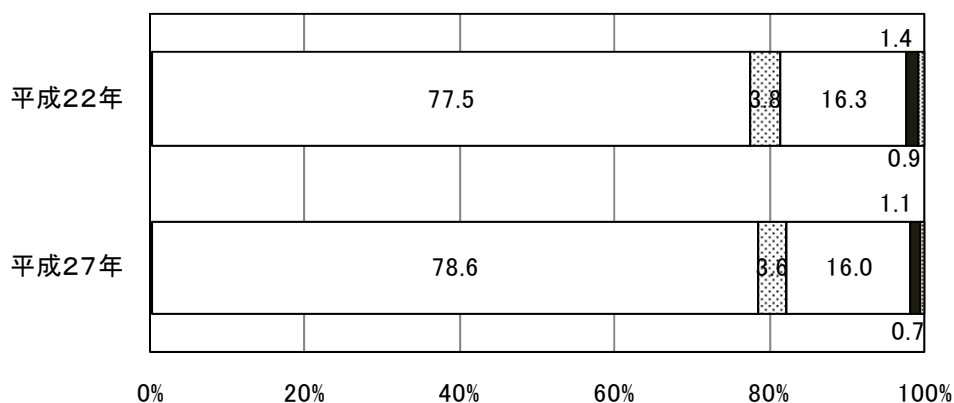
3 住 居

持ち家に住む世帯は住宅に住む一般世帯の78.6%

住宅に住む一般世帯は33,505世帯（平成22年 33,292世帯）で、このうち、持ち家に住んでいる世帯は26,323世帯（住宅に住む一般世帯の総数の78.6%）、公営・都市再生機構・公社の賃貸住宅1,211世帯（同 3.6%）、民営の賃貸住宅5,359世帯（同 16.0%）、給与住宅384世帯（同 1.1%）、間借りをしている世帯228世帯（同 0.7%）となっています。

平成22年と比べると、持ち家に住んでいる世帯は213世帯増加（増加率2.0%）、民営の賃貸住宅77世帯減少（減少率1.4%）、給与住宅83世帯減少（減少率17.8%）、間借りをしている世帯83世帯減少（減少率26.7%）、公営・都市再生機構・公社の賃貸住宅68世帯減少（減少率5.3%）となっています。（図-8、第23表参照）

図-8 住居の種類別世帯構成比の比較



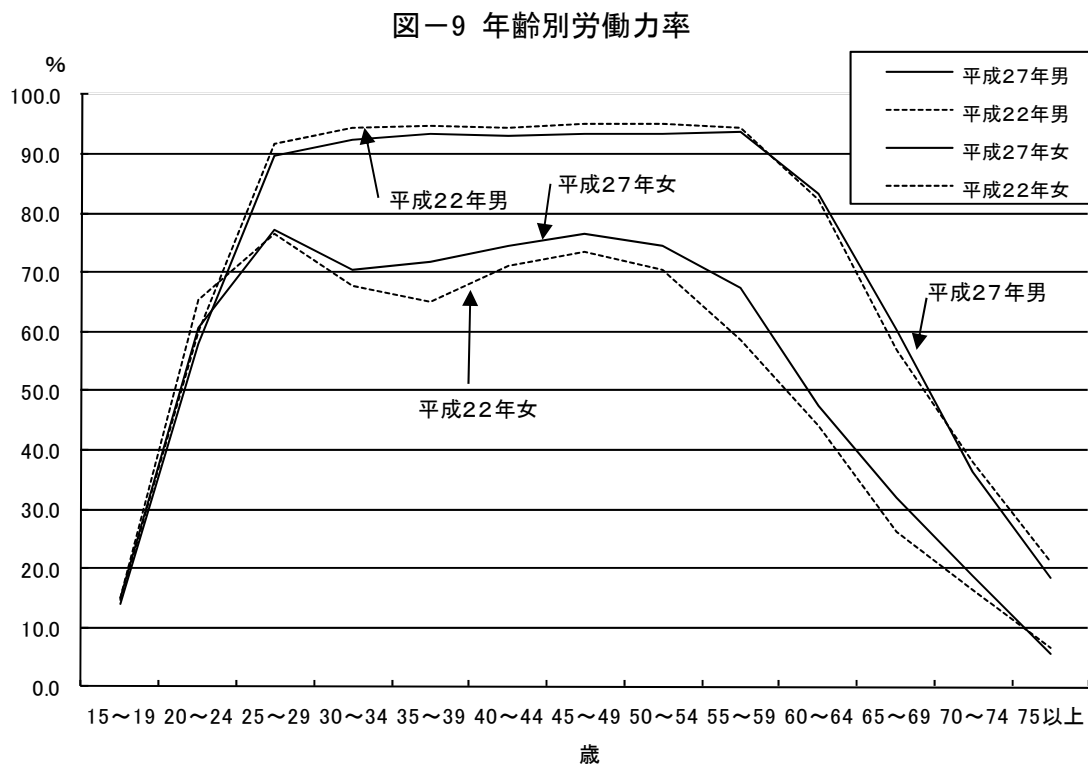
□持ち家 ■公営・都市機構・公社の借家 □民営の借家 ■給与住宅 ■間借り

4 労働力 労働力率58.4%

15歳以上人口76,636人のうち、労働力人口は44,735人で労働力率は58.4%となっており、前回調査に比べて2,689人（減少率5.7%）減少しています。内訳をみると、42,864人（95.8%）が就業者、1,871人（4.2%）が完全失業者となっています。非労働力人口は、15歳以上人口の38.8%を占める29,704人という結果になっています。

労働力について男女別にみると、男性と女性で大きな違いがみられます。男性は、逆U字型といわれる曲線を描き、25歳から59歳まではいずれも90%を越える高い比率を示しています。

女性は、M字型といわれる曲線を描いており、子育て期である30代前半で下降し、その後再び上昇、下降しています。（図－9、第25表参照）



注：労働力人口は、収入を得ることを目的とする仕事をしている人（就業者）と、仕事はしていないけれども仕事を探している人（失業者）の合計をいう。

労働力率は、労働力人口÷15歳以上人口×100で表し、労働力人口に対応する年齢階級人口に対する比率をいう。

15歳以上人口は労働力状態不詳が含まれているため、労働力人口と非労働力人口の合計と一致しない。

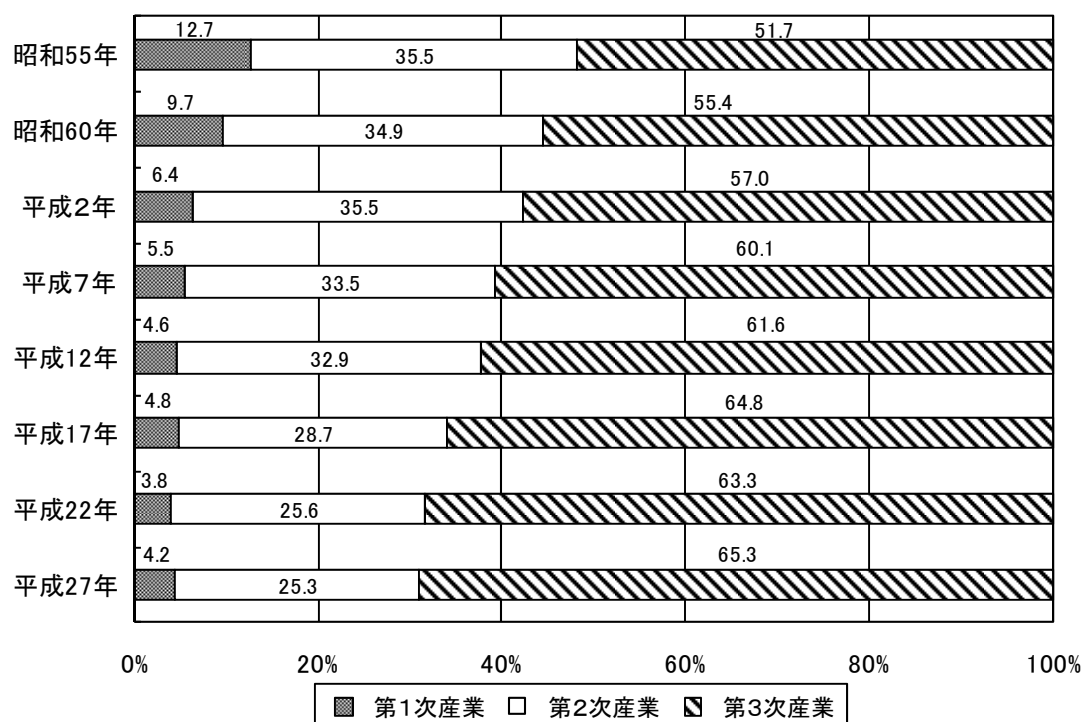
5 産業別就業者数 第3次産業が65.3%

就業者42,864人を産業大分類別にみると、製造業の就業者が最も多く7,956人、次いで卸売・小売業の6,610人、医療・福祉の5,531人となっています。

また、産業3部門別にみても、第1次産業で1,779人（4.2%）、第2次産業で10,827人（25.3%）、第3次産業で28,002人（65.3%）となっています。

第1次産業は、昭和45年には3人に1人の割合で就業していましたが、30年後の平成12年には、約20人に1人の割合となり大幅に減少しています。（図-10、第26表、第27表参照）

図-10 産業別就業者数構成比率の推移



注：第1次産業…農業、林業、漁業

第2次産業…鉱業、建設業、製造業

第3次産業…卸売業・小売業・飲食店、金融・保険業、不動産業、運輸・通信業、電気・ガス・熱供給・水道業、サービス業、公務

就業者数は分類不能が含まれているため、産業3部門別就業者の合計と一致しない。

6 人口集中地区（DIDs）

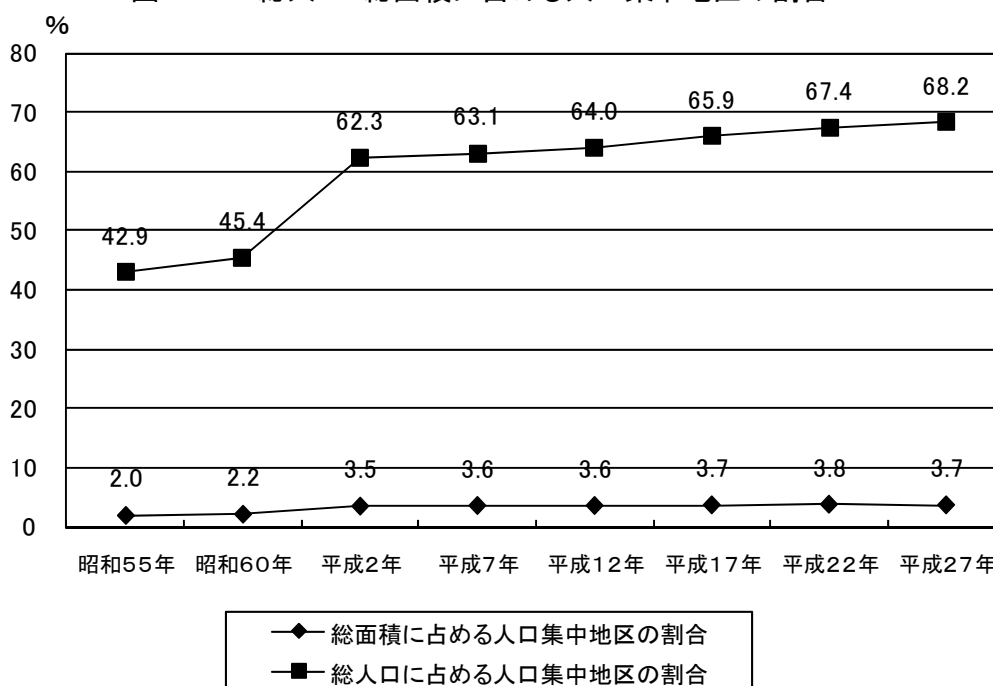
総人口の68.2%が人口集中地区に居住

本市の人口集中地区の**人口は、61,048人、面積8.40km²**となりました。

それぞれ、総人口の68.2%、総面積の3.7%を占めています。

昭和40年に本市で初めて人口集中地区が設定されて以来、増減率は、40～45年25.8%、45～50年△1.7%、50～55年181.7%、55～60年16.1%、60～2年53.7%、2～7年9.7%、7～12年3.9%、12～17年2.3%、17～22年0.5%、22～27年0.8%と推移しています。（図－11参照）

図－11 総人口・総面積に占める人口集中地区の割合



| 区 分 | | 昭和55年 | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|-----------------------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 人口集中地区面積 (km ²) | | 4.6 | 5.0 | 7.9 | 8.0 | 8.1 | 8.4 | 8.5 | 8.4 |
| 人口集中地区内人口 | | 29,775 | 34,571 | 53,147 | 58,303 | 60,548 | 61,911 | 62,239 | 61,048 |
| 人口集中地区内人口密度 | | 6,472.8 | 6,914.2 | 6,727.5 | 7,287.9 | 7,438.3 | 7,370.4 | 7,322.2 | 7,267.6 |
| 総数に占める割合 (%) | 面積 | 2.0 | 2.2 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.7 | 3.8 | 3.7 |
| | 人口 | 42.9 | 45.4 | 62.3 | 63.1 | 64.0 | 65.9 | 67.4 | 68.2 |

7 昼間人口及び通勤・通学人口

昼間人口 ～常住人口の85.5%～

亀岡市の昼間人口は、76,543人となり前回調査に比べると、2,727人（減少率3.4%）減少しています。

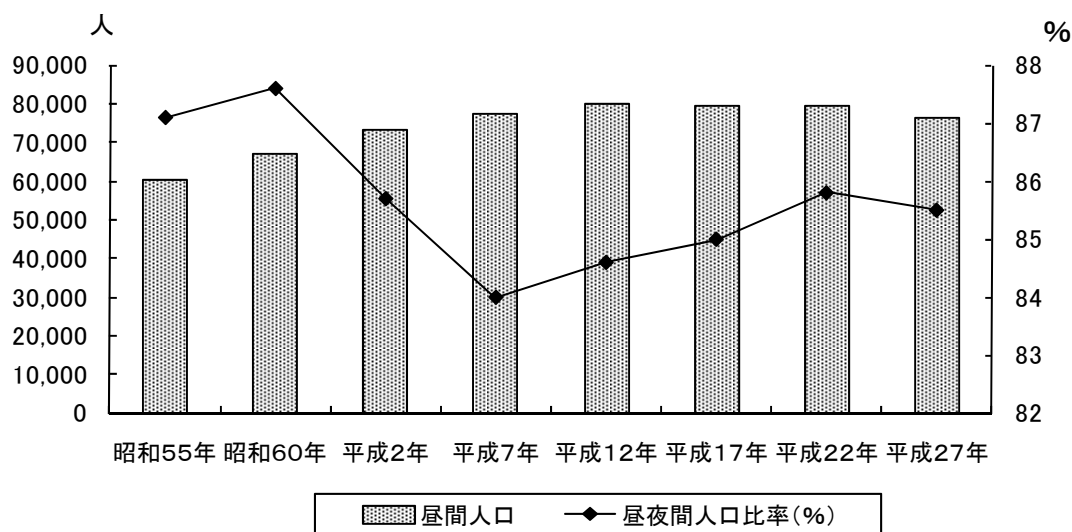
昼夜間人口比率（常住人口100人当たりの昼間人口の割合）は85.5%となり、前回調査と比べて少し（0.3%）比率が低くなっていますが、平成17年からほぼ横ばいで、亀岡市への流入人口よりも、亀岡市から流出する人口の割合が増えていっていることがわかります。（図-12、第28表参照）

| 区 分 | | 昭和 55年 | 昭和 60年 | 平成 2年 | 平成 7年 | 平成 12年 | 平成 17年 | 平成 22年 | 平成 27年 |
|-----------------------|--------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 常 住 人 口 〔夜間人口〕 (A) | | 69,397 | 76,205 | 85,195 | 92,317 | 94,415 | 93,304 | 92,399 | 88,481 |
| 流 出 人 口 | 総数 (B) | 13,602 | 15,461 | 19,666 | 23,547 | 23,597 | 23,378 | 21,620 | 20,980 |
| | 通勤 | 12,068 | 13,613 | 16,561 | 19,422 | 19,542 | 19,474 | 17,966 | 17,819 |
| | 通学 | 1,534 | 1,848 | 3,105 | 4,125 | 4,055 | 3,904 | 3,654 | 3,161 |
| 流 入 人 口 | 総数 (C) | 4,669 | 6,032 | 7,480 | 8,801 | 9,051 | 9,523 | 8,491 | 8,044 |
| | 通勤 | 3,405 | 4,610 | 5,604 | 6,516 | 7,107 | 7,605 | 7,092 | 7,000 |
| | 通学 | 1,264 | 1,422 | 1,876 | 2,285 | 1,944 | 1,918 | 1,399 | 1,044 |
| 昼間人口(A)-(B)+(C) | | 60,464 | 66,776 | 73,009 | 77,571 | 79,869 | 79,449 | 79,270 | 75,545 |
| 昼夜間人口比率(%) | | 87.1 | 87.6 | 85.7 | 84.0 | 84.6 | 85.2 | 85.8 | 85.4 |

注：常住人口〔夜間人口〕は、年齢不詳を含まない。

$$\text{昼夜間人口比率} = \text{昼間人口} \div \text{常住人口〔夜間人口〕} \times 100$$

図-12 亀岡市の昼間人口及び昼夜間人口比率



通勤・通学人口 ～流出人口は流入人口の2.6倍～

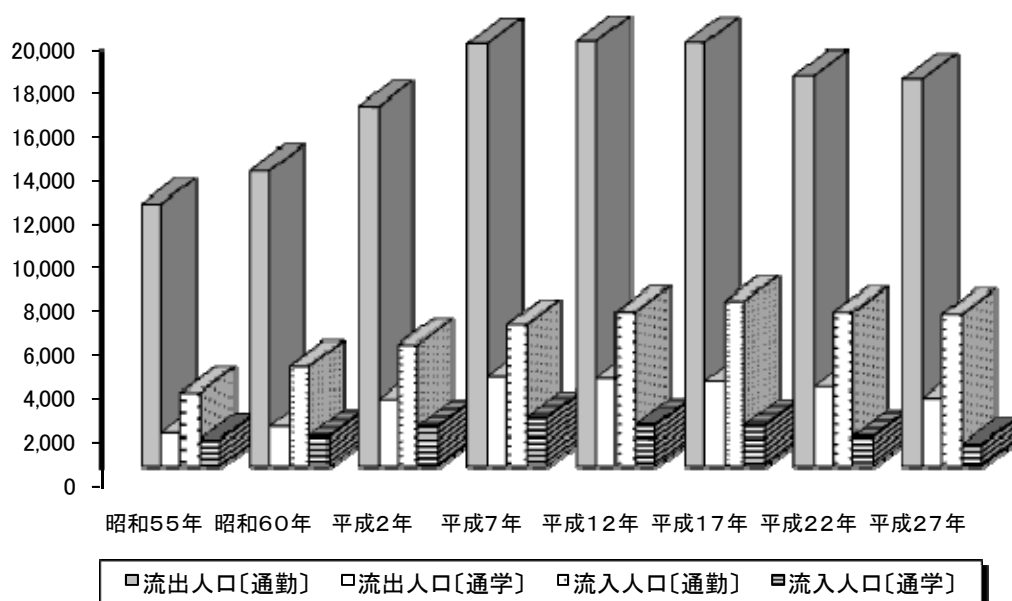
亀岡市を従業地・通学地として他市区町村から流入する人口は、8,044人（内、京都府内他市区町村に常住している人は、6,296人・京都府外に常住している人は、1,748人）となっています。

亀岡市を従業地・通学地として通勤通学している人の常住地で多いのは、京都市（3,015人）・南丹市（2,005人）・京丹波町（374人）・向日市（221人）・長岡京市（213人）となり、この4市1町で全体の約93%を占めています。

また、亀岡市に住んでいて、亀岡市外で通勤・通学するため流出する人口は、20,980人（内、京都府内他市区町村で、従業・通学している人は17,695人・京都府外で従業・通学している人は3,285人）となっています。

亀岡市に常住している人の従業地・通学地で亀岡市以外で多いのは、京都市（12,141人）・南丹市（3,400人）・長岡京市（463人）・京丹波町（375人）・向日市（262人）となり、この4市1町で全体の約94%を占めています。（図-13、第28表、第29表、第30表参照）

図-13 流出流入人口



8 人口移動

亀岡市在住の15%が5年間に住所を移動

総人口に占める5年前の常住地別の割合をみると、5年前に現住所以外の「国内」に住んでいた人は15.1%、「国外」からの転入者は0.2%などとなっており、5年前は「現住所」以外に住んでいた移動人口は15.3%となっています。一方、5年前も「現住所」に住んでいた人は84.7%となっています。

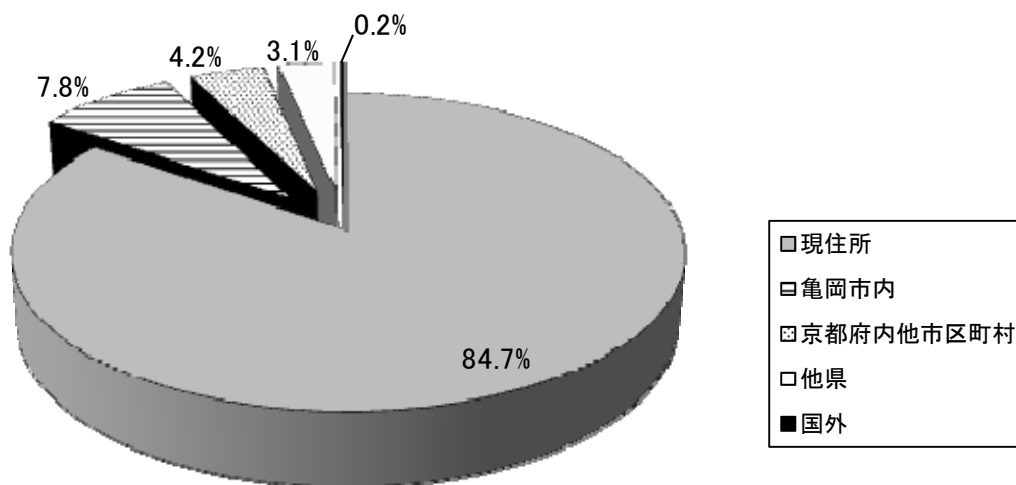
移動人口についてみると、「亀岡市内」が7.8%と最も高く、次いで「京都府内市区町村」が4.2%、「他県」が3.1%、「国外」が0.2%となっています。

男女別にみると、男性が男性人口の15.2%、女性が女性人口の15.4%となっています。

平成22年と比較するため5歳以上人口についてみると、5歳以上人口に占める移動人口の割合は、27年は15.0%となり、平成22年の16.9%に比べ低下しています。

注：5年前の常住地は大規模調査のみの調査項目。平成12年調査までは5歳以上の人口のみを集計していたが、平成22年調査から、5歳未満の者についても、出生後ふだん住んでいた場所を5年前の常住地とみなして集計している。

図-14 5年前の常住地



5年前の常住地、男女別人口（平成22年・平成27年）

| | | 総数※ | 現住所 | 現住所以外（移動人口） | | | | | |
|-----------|----------------|--------|--------|-------------|-------------|-----------|-------|-------|-----|
| | | | | 国内 | 現住所以外（移動人口） | | | 国外 | |
| | | | | | 亀岡市内 | 京都府内他市区町村 | 他県 | | |
| 実数 (人) | 平成27年 総数 | 89,479 | 71,104 | 12,851 | 12,710 | 6,545 | 3,545 | 2,620 | 141 |
| | 男 | 43,267 | 34,289 | 6,140 | 6,077 | 3,006 | 1,695 | 1,376 | 63 |
| | 女 | 46,212 | 36,815 | 6,711 | 6,633 | 3,539 | 1,850 | 1,244 | 78 |
| | (再掲)5歳以上人口 総数 | 84,971 | 68,592 | 12,119 | 11,982 | 6,147 | 3,312 | 2,523 | 137 |
| | 男 | 40,909 | 32,975 | 5,760 | 5,701 | 2,798 | 1,576 | 1,327 | 59 |
| | 女 | 44,062 | 35,617 | 6,359 | 6,281 | 3,349 | 1,736 | 1,196 | 78 |
| | 平成22年5歳以上人口 総数 | 92,399 | 72,880 | 14,816 | 14,611 | 7,276 | 4,114 | 3,221 | 205 |
| | 男 | 44,889 | 35,160 | 7,257 | 7,165 | 3,369 | 2,011 | 1,785 | 92 |
| | 女 | 47,510 | 37,720 | 7,559 | 7,446 | 3,907 | 2,103 | 1,436 | 113 |
| 割合 (%) | 平成27年 総数 | 100.0 | 84.7 | 15.3 | 15.1 | 7.8 | 4.2 | 3.1 | 0.2 |
| | 男 | 100.0 | 84.8 | 15.2 | 15.0 | 7.4 | 4.2 | 3.4 | 0.2 |
| | 女 | 100.0 | 84.6 | 15.4 | 15.2 | 8.1 | 4.3 | 2.9 | 0.2 |
| | (再掲)5歳以上人口 総数 | 100.0 | 85.0 | 15.0 | 14.8 | 7.6 | 4.1 | 3.1 | 0.2 |
| | 男 | 100.0 | 85.1 | 14.9 | 14.7 | 7.2 | 4.1 | 3.4 | 0.2 |
| | 女 | 100.0 | 84.8 | 15.2 | 15.0 | 8.0 | 4.1 | 2.9 | 0.2 |
| | 平成22年5歳以上人口 総数 | 100.0 | 83.1 | 16.9 | 16.7 | 8.3 | 4.7 | 3.7 | 0.2 |
| | 男 | 100.0 | 82.9 | 17.1 | 16.9 | 7.9 | 4.7 | 4.2 | 0.2 |
| | 女 | 100.0 | 83.3 | 16.7 | 16.4 | 8.6 | 4.6 | 3.2 | 0.2 |

※ 実数については、5年前の常住地「不詳」を含む。